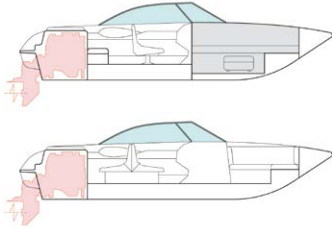


2-c 艇種とアレンジ

ランナバウト (runabout)

その名の通り、走り回ることそのものを目的としたもの。基本的に本格的なキャビンは持ちません。

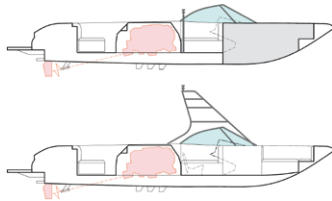
船首側にデッキを持たない「パウライダー (オープン・パウ)」タイプと、デッキを備える「クローズド・パウ」があります。



トローイングボート (towing boat)

ランナバウトの一種ですが、特に水上スキーやウェイクボードのトローイングに特化した機能や特性が与えられたモデル。

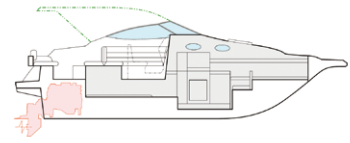
目的に見合った性格を得るため、パワーユニットはインボードエンジン (ダイレクトまたはVドライブ) が一般的。



エクスプレスクルーザー / クーペ (express cruiser/coupe)

小～中型クラスは、欧米のファミリー向けクルーザーの定番的なモデル。船首側デッキ下をキャビンとし、広いコックピットとキャビンの居住性を両立しています。

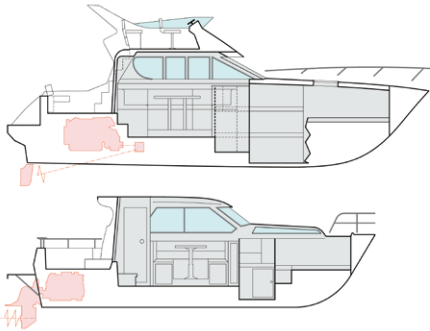
最近では、ハードトップを固定装備としたクーペタイプも多くなりました。



セダン (sedan)

現在はそうでないものもありますが、もともとは米語で、自動車と同様に「キャビン内に操縦席のあるフネ」の意。外に見えるデッキハウスをメインキャビンとしたクルージング向けモデル。

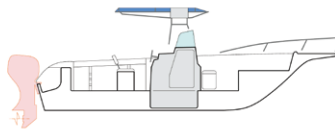
本来、その有無は関係ないのですが、フライブリッジ付きが主流です。



センターコンソール (center console)

米国系フィッシングボートの定番。日本でも、汎用和船にステアリングコンソールだけを取り付けたものは、同じようなコンセプトのモデルといえます。

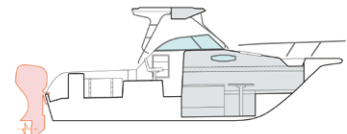
ただし、地中海方面のセンターコンソールには、ランナバウト的な性格のものもかなりあります。



エクスプレスフィッシャーマン (express fisherman)

クルージングボートのエクスプレスと似たアレンジの、船首デッキ下にカディやキャビンを持つフィッシングボート。欧米のウォークアラウンドなどもこの一種といえるでしょう。

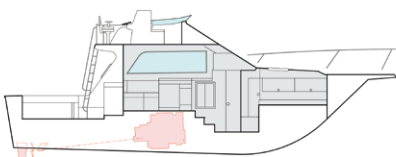
船首側にデッキを持っているため、センターコンソールよりはオフショア向きといわれるものが多くなっています。



コンバーチブル (convertible)

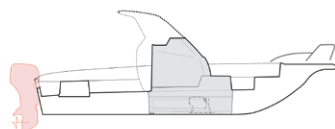
もともとは、フライブリッジ付きセダンにフィッシング能力を盛り込むというコンセプトでスタートし、コンバーチブル・セダンと呼ばれていました。

フィッシング (特に外洋のトローリング) とキャビンの居住性を両立したモデル。



日本式小型フィッシングボート

欧米のセンターコンソールと似た造りですが、もともと日本の小型汎用和船に範をとった基本アレンジで、現在はコンソール上部にハードトップを一体成形し、後部開放パイロットハウス型としたものが主流。



パイロットハウス型ボート

日本のマリンシーンで見かけるこの種のモデルの多くは国産フィッシングボートで、パイロットハウスは、移動の際に風波を避ける目的で用いられることが前提となっています。

内装を充実させたクルージングタイプやファミリー向けモデルもあります。

